

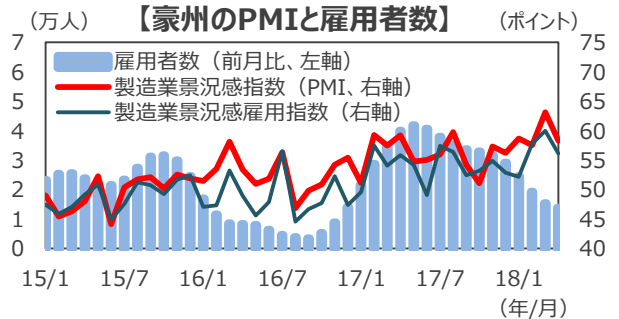
今日のトピック 堅調に推移する豪州経済（2018年5月）

高水準にある企業景況感指数、生産・雇用は拡大を続けよう

ポイント1 改善傾向の企業景況感

雇用も増加の勢いを強める見通し

- 2018年4月の製造業景況感指数（PMI）は、58.3となりました。過去最高だった3月の63.1からは低下したものの、高い水準を維持しています。
- 同月の雇用者数は、月毎の変動を均したトレンド値で見て前月比1.4万人増でした。17年の大幅増の反動から雇用増加数は鈍化傾向ですが、企業景況感指数は高水準で、人員増強にも前向きです。18年7月に実施予定の所得税減税の効果も期待され、雇用は今後、勢いを強める見通しです。



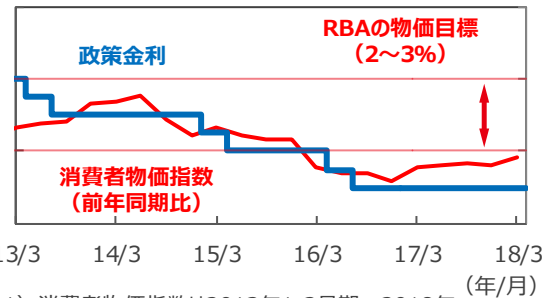
(注) データは2015年1月～2018年4月。雇用者数はトレンド値。
(出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 金融政策は中立を維持

物価はRBAの目標値に未達

- 18年1-3月期の消費者物価指数（異常値をつけた項目を除外したトリム平均値）上昇率は、前年同期比+1.9%と、豪州準備銀行（RBA）の目標レンジ+2～+3%を引き続き下回りました。
- RBAは、5月1日に開催した金融政策決定会合で政策金利を1.50%に据え置きました。賃金の上昇が緩やかなことから、物価上昇率が利上げの条件である“RBA物価目標レンジの中央値+2.5%”に到達するまでには時間がかかる見通しです。このため、政策金利は当面、据え置きが予想されます。

【消費者物価指数と政策金利】

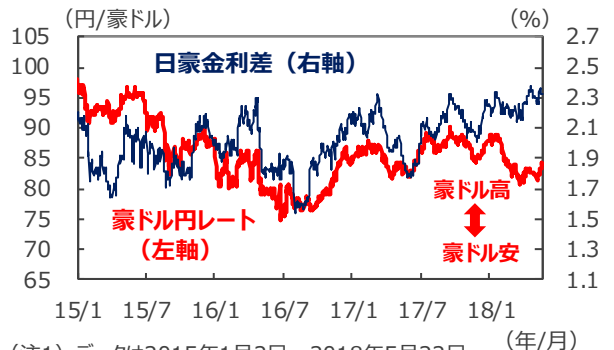


(注1) 消費者物価指数は2013年1-3月期～2018年1-3月期。消費者物価指数はトリム平均値。
(注2) 政策金利は2013年3月31日～2018年5月22日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 豪ドルは堅調に推移しよう

- 足元の豪ドルの対円相場は、緩やかに持ち直しつつあります。シリア情勢等の地政学リスクの後退、米中貿易摩擦の緩和等によるものです。中東情勢には引き続き注意が必要ですが、堅調な豪州景気、豪日間の金利差拡大等から判断する限り、豪ドル相場は今後も底堅い推移が見込まれます。

【豪ドルの対円レートと日豪金利差】



(注1) データは2015年1月2日～2018年5月22日。
(注2) 金利差は豪州-日本。金利はともに3年国債利回り。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! 2018年5月15日 底堅く推移する中国経済（2018年5月）

2018年5月 1日 豪州の金融政策は引き続き据え置き（2018年5月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。